

## 令和 3 年度森林・林業白書の作成方針（案）

### 1. 白書の構成

#### （1）「令和 3 年度森林及び林業の動向」

##### （ア）トピックス・特集

トピックスとして、令和 3 年度における森林・林業に関する特徴的な動きを紹介・解説する。

特集として、特定のテーマについて詳細な分析等を行う。

##### （イ）通常章

第 I 章以降は、「森林の整備・保全」、「林業と山村（中山間地域）」、「木材需給・利用と木材産業」、「国有林野の管理経営」、「東日本大震災からの復興」の章立てとし、森林・林業全般について現状・課題の分析等を行う。

#### （2）「令和 3 年度に講じた森林及び林業施策」、「令和 4 年度に講じようとする森林及び林業施策」

現行の「森林・林業基本計画」（令和 3 年 6 月閣議決定）を踏まえた項目立てとする。

### 2. 白書改革

#### （1）現状

森林・林業白書については、特集、通常章ともに記述を充実させてきており、ホームページのアクセス数も年々向上（別添 1）。

特に特集においては、多面的機能、技術、人材、持続可能な開発目標（SDGs）、林業など長期にわたって参照できるようなものや、森林経営管理制度といった新たな制度を取り上げるなど、林業・木材産業関係者を始めとした国民の関心も考えながらテーマを決め、公表してきたところ。

一方で、年々ページ数が増加（別添 1）し通読することが難しくなっており、概要版等で全体像を掴んだ後、必要な箇所を読むという形

も多いと認識している。作成に伴う業務量も増加しており、閣議決定前に誤記が発覚し印刷をし直すなどの事態も発生している。

また、スマートフォン等の普及で、ホームページやSNSにより情報を得る者も増加している。社会全体でデジタル化も進んでいる中、自民党からも政府に対し、白書類の紙媒体については統廃合も含めたスリム化を行い、ホームページに誘導するなどデジタル化を進めることで、利用者の利便性を損なわず、各省庁の業務効率化（働き方改革）を進めていくように提言がなされているところ。

## （２）方向性

森林・林業白書についても、ここ５年間で70ページの増加があることから、ページ数の削減を行い、さらに読みやすい白書とする。また、食料・農業・農村白書など農林水産省の他白書に比べて、文字が小さく読みづらいという指摘があったことから、文字の大きさを他白書に合わせる。

その際、特集を始め、これまでも様々な場で活用、参照されてきていることから、参照されることの多いデータは残すとともに、ページ数を削減した部分の労力について、分析に力を入れるなど、メリハリを付けた記述内容とする。

また、様々な政策に関連し、事例やマニュアルも含めて林野庁ホームページに多くの情報が掲載されており、QRコードをつけるなど、これまで以上に白書からホームページへの誘導を分かりやすくし、欲しい情報を手に入れやすい環境を整える。

なお、記述内容の検討に向けて、林業従事者・木材産業者等が、これまでどのように白書を使っているかについての情報が少ないため、ホームページでのアンケート等を実施することで、利用者の声も集めていくこととしたい。

### 3. 特集のテーマ

森林は二酸化炭素を吸収・固定するとともに、木材として建築物等に利用することで炭素を長期間貯蔵可能である。また、製造時のエネルギー消費の比較的少ない資材である木材や木質バイオマスの利用は二酸化炭素排出量削減にもつながる。我が国の人工林は、半数以上が 50 年生以上と本格的な主伐期を迎えており、木材利用を拡大し、間伐や再造林等の森林整備を着実に実行していくことが課題である。

建築分野で木材の利用を拡大するには、要求される性能に応じた木材を安定的に提供することが求められており、製材工場や合板工場等の木材産業は、これまで様々な製品を開発するとともに規模拡大・高付加価値化を進め競争力を強化してきた。

さらに、再造林が行われていない箇所も見られる中、林業に加え、木材産業においても、規模拡大による生産性向上や川上から川下までの連携等により、山元への還元を進め、再造林を後押しする取組がみられる。

このような形で「伐って、使って、植える」という森林の循環利用を進めることで、社会経済生活の向上とカーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」が期待される。

これを受けて、「令和 3 年度森林・林業白書」の特集のテーマを「グリーン成長のカギを握る木材産業の展開方向（仮）」とし、森林・木材利用の地球温暖化防止等への貢献を紹介した後、木材利用拡大を支える木材産業の現状と課題について整理する。その際、国際競争力や地場競争力の強化の状況・課題を分析し、今後の木材産業の可能性を提示する。

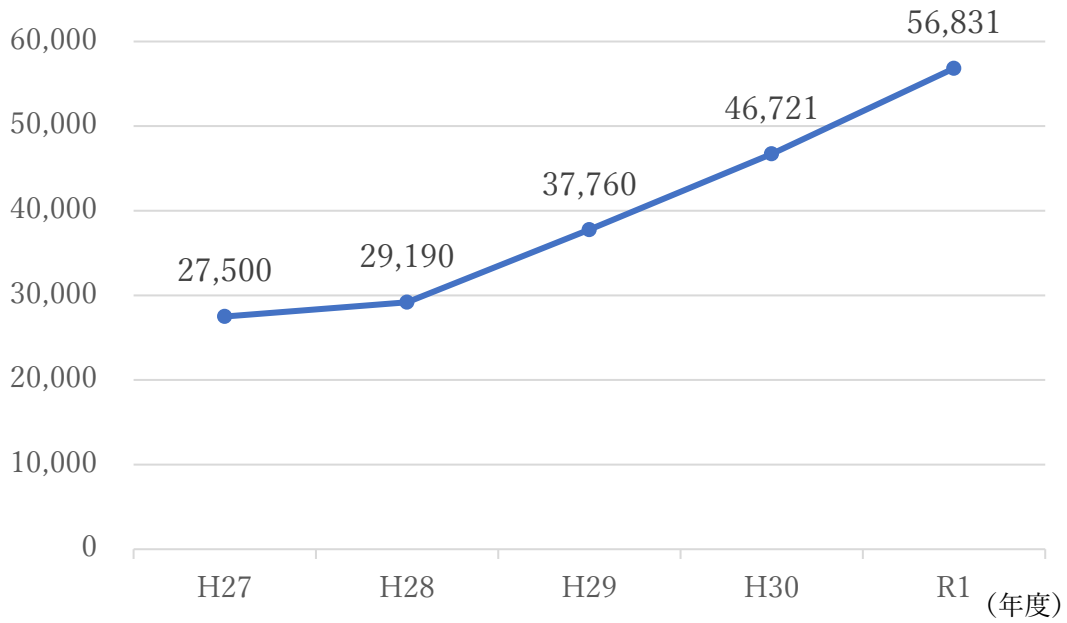
### 4. 今後の予定

今回を含め計 3 回の施策部会で検討を重ねていただき、林政審議会での諮問・答申を経て、来年 5～6 月の閣議決定・公表を目指す（別添 2）。

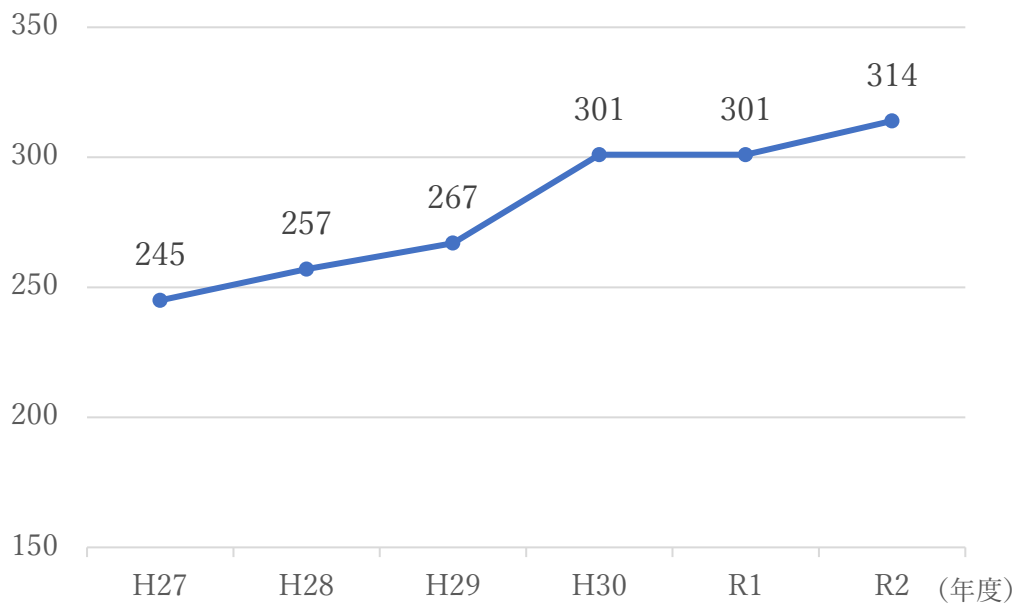
（以上）

## 森林・林業白書の状況

森林・林業白書のアクセス件数の推移



森林・林業白書のページ数の推移



令和3年度森林・林業白書のスケジュール(案)

本年9月9日 林政審議会(諮問)

第1回林政審議会施策部会  
・作成方針(案)の検討

11月～12月 第2回施策部会  
・令和3年度森林及び林業の動向  
(構成(案)、主要記述事項(案))

来年2～3月 第3回施策部会  
・令和3年度森林及び林業の動向(原案)  
・令和4年度森林及び林業施策(原案)

4月 林政審議会  
・令和3年度森林及び林業の動向(案)  
・令和4年度森林及び林業施策(案)  
(答申)

5月下旬～6月上旬 閣議決定・国会提出・公表

(参考 1)

◎森林・林業基本法（昭和三十九年法律第百六十一号）（抄）

（森林及び林業の動向に関する年次報告等）

第十条 政府は、毎年、国会に、森林及び林業の動向並びに政府が森林及び林業に関して講じた施策に関する報告をしなければならない。

2 政府は、毎年、前項の報告に係る森林及び林業の動向を考慮して講じようとする施策を明らかにした文書を作成し、これを国会に提出しなければならない。

3 政府は、前項の講じようとする施策を明らかにした文書を作成するには、林政審議会の意見を聴かなければならない。

## これまでの森林・林業白書（林業白書）の特集について

年度	テーマ名
昭和 47年度	国民生活と森林・林業、国有林野事業の課題
48年度	森林資源をめぐる課題
49年度	林業の発展と山村地域の課題
50年度	林業の発展と林家の課題
51年度	林業の地域的発展をめぐる課題
52年度	木材需給と林業発展の課題
53年度	林業の発展と森林資源の整備をめぐる課題
54年度	地域林業の担い手育成をめぐる課題
55年度	木材需給構造の変化と流通加工部門の対応
56年度	林業経営の現状と林業発展の課題
57年度	森林管理の現状と緑資源確保の課題
58年度	林政の推進と国有林野
59年度	国産材時代への挑戦
60年度	森林資源整備の新たな展開を目指して
61年度	試練にたつ日本林業とその活力回復に向けて
62年度	新たな林業技術体系の構築
63年度	豊かな国民生活のための森林づくり
平成 元年度	国民のニーズにこたえる木材の供給と国内森林資源の有効活用
2年度	森林管理とその担い手のあり方
3年度	森林の管理と山村の活性化
4年度	地球環境を守る森林・林業
5年度	森林と木の時代を目指して
6年度	森林文化の新たな展開を目指して
7年度	林業、木材産業の活性化に向けて
8年度	木材の消費・流通構造と国産材供給の課題
9年度	国有林野事業の抜本的改革
10年度	木材の利用推進と森林の適切な整備
11年度	世紀を超えた森林整備の推進
12年度	これまでの林政の推移と新たな基本政策の方向
13年度	森林と国民との新たな関係の創造に向けて
14年度	世界の森林の動向と我が国の森林整備の方向
15年度	新たな「木の時代」を目指して
16年度	次世代へと森林を活かし続けるために
17年度	国民全体で支える森林
18年度	健全な森林を育てる力強い林業・木材産業を目指して
19年度	林業の新たな挑戦
20年度	低炭素社会を創る森林
21年度	林業再生に向けた生産性向上の取組
22年度	木材の需要拡大ー新たな「木の文化」を目指して
23年度	東日本大震災からの復旧・復興に向けて
24年度	森林・林業の再生と国有林
25年度	森林の多面的機能と我が国の森林整備
26年度	森林資源の循環利用を担う木材産業
27年度	国産材の安定供給体制の構築に向けて
28年度	成長産業化に向けた新たな技術の導入
29年度	新たな森林管理システムの構築
30年度	今後の森林の経営管理を支える人材 ～森林・林業・木材産業にイノベーションをもたらす！～
令和 元年度	持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する森林・林業・木材産業
2年度	森林を活かす持続的な林業経営（特集2として、新型コロナウイルス感染症による林業・木材産業への影響と対応）

注：特集は昭和47年度から掲載

## 森林・林業白書の特集の内容（過去10年）

年度	テーマ名・内容
平成23年度	<p><b>【震災復興】東日本大震災からの復旧・復興に向けて</b>  <u>東日本大震災による森林・林業・木材産業の被害状況・復旧状況</u>を紹介。海岸防災林の復旧・再生、木材の活用、エネルギー安定供給に向けた木質バイオマスの活用、原子力災害からの復興について記述。</p>
24年度	<p><b>【森林・林業】森林・林業の再生と国有林</b>  <u>森林・林業の再生</u>に向けて進めている取組を整理。<u>国有林野事業の今後の展開方向</u>について紹介。</p>
25年度	<p><b>【森林】森林の多面的機能と我が国の森林整備</b>  <u>森林の多面的機能の発揮に果たす森林整備の役割</u>について記述。我が国の森林整備を巡る歴史を振り返り、<u>森林整備推進のために関係者が果たすべき役割</u>など今後の課題を整理。</p>
26年度	<p><b>【木材産業】森林資源の循環利用を担う木材産業</b>  <u>木材産業の役割と概要</u>等について記述。我が国の戦後の木材需給の変遷と木材産業の対応を振り返り、<u>木材産業をめぐる最近の動向と将来に向けて取り組むべき課題</u>を整理。</p>
27年度	<p><b>【林業】国産材の安定供給体制の構築に向けて</b>  <u>人工林資源の充実</u>や<u>国産材需給の現状</u>について分析し、<u>国産材の安定供給体制の構築に向けた取組の現状や今後の課題</u>について、「原木の供給力の増大」と「木材等の需給情報の共有と原木供給のとりまとめ」に分けて整理。</p>
28年度	<p><b>【技術導入】成長産業化に向けた新たな技術の導入</b>  <u>林業の成長産業化を図る上で基礎となる新たな技術</u>について、林業の生産性向上、情報通信技術（ICT）の活用、木材需要拡大、花粉の発生抑制の4つに分けて、<u>導入状況やその成果と課題等</u>を整理。</p>
29年度	<p><b>【制度】新たな森林管理システムの構築</b>  <u>森林の集積・集約化を進める「新たな森林管理システム」の構築の方向性</u>について、欧州の代表的な林業国であるオーストリアとの比較により、<u>我が国林業の構造的な課題</u>を明らかにしながら記述。</p>
30年度	<p><b>【人材】今後の森林の経営管理を支える人材～森林・林業・木材産業にイノベーションをもたらす！～</b>  <u>林業の成長産業化と森林の適切な経営管理に不可欠である人材に着目</u>して、<u>林業経営体や林業従事者の動向や課題</u>を整理しつつ、森林・林業・木材産業における<u>イノベーションの必要性</u>や個々のイノベーション事例について記述。</p>
令和元年度	<p><b>【SDGs】持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する森林・林業・木材産業</b>  <u>我が国におけるSDGsと森林・林業・木材産業との関係性</u>を整理するとともに、<u>企業を始めとした様々な主体の森林との多様な関わりを、多くの事例</u>を用い紹介。また、SDGsの達成に向けた関係者の役割を記述。</p>
2年度	<p><b>【林業】森林を活かす持続的な林業経営</b>  <u>林業経営体の課題を整理した後、森林の循環利用を前提とした販売強化・低コスト化による収益性向上、人材の確保・育成、体制整備の取組</u>について紹介。まとめとして、今後の林業の<u>収支構造試算等の林業経営の可能性を提示</u>。  特集2として、<u>新型コロナウイルス感染症による影響と対応</u>を記述。</p>